

KK通信

昭和28年11月1日発行(毎月1日1回発行)
昭和28年4月17日第3種郵便物認可
発行所 堺局区内菅原通4ノ30曙書房
定価 一部 20円

第一四号

十一月号の威容

先ず口繪では待望の色刷写真を入れ
た。モデルは村田那美子嬢を頼し、炎
天下に三時間の労作の上、果された写
真の中の一枚である。汗にまみれた砂
の感触が現れたいのだが、本KK通
信に連載して絶賛を博した行田和子さ
んの地獄繪より取材した「拷問部屋」
の口繪は都築さんのイメージによつて
大分明るくなったが、ひしひしと
と身にまといつく縛りめは、K通信号
との対照によつて、汚辱にのたつて母
娘三人の被虐の姿が更に生かされるこ
と、と思う。瀟灑子さんの考案になる棒
と柱を用いた縛り方は今迄にない親切
な企画である。今後こうしたものを当
分続ける腹案はあるそうだから楽しみに
して待つてほしい。フォト・セ
クションの新しい試み、これは第一回
だが、号を追うて充ちてゆくつもり
本誌の獨特を誇るに足る企画。蛇男の
幻想はその妖美なファンタジーをよ
味つて下さい。誰も一度はこういつた
場面を夢に描くものである。女が縛ら

れるまでは断然新企画、辻村隆氏が直
接自分が写真の中へ入つてつけた数々
のポーズ、スペースの関係で十五枚全
部を入れられなかつたのが残念。「深
流に縛られて」は真摯な塚本氏の気質
そのまゝ現したほゝえましき作品、数
多い読者の要望で杉原虹児氏の習作集
私刑五態を物して貰つた。奇抜な中に
も繪としての不自然さをなくした点は
責め放浪十年の氏だけのことはある。
次号に期待するところ大。緊縛美のオ
ンパレードは九月号に(一)から(四)
まで載せて喜ばれた続きの(五)であ
る。

さて次には本誌の誇る告白物である
作り物の多い中で、これだけは読ん
で頂ければすぐわかる真実味溢れるも
の揃い。先ず第一に挙げるべきは新し
いサディズムの提唱者吾妻新氏の自伝
的小説「感情教育」本号のはその序と
もうべき箇所であるが、第二、第三
とその精髓は必ずや諸氏を桃源境へ誘
い込ますにはおかないだろう。同じく
告白小説ともいふべき青山三枝吉氏の
悦虐の旅役者、これは本誌のためにわ

ざくざくとおきの体験を小説にされ
たもの、第四回読者座談会としては女
を縛つた経験を語ると題して三人のベ
テランが辻村隆氏を囲んで一夕の放談
が速記された。マゾヒズムとしては一
つの変わった型、そして新旧の対照を示
した緑猛比古氏の木鼠吉五郎の半生と
富田陽夫のまぞひすと・さしすと、共
に倒錯の心理を深く抉つて皆さまの胸
に鋭く迫ると信ずる。続き物としての
蜘蛛と蝶々、虐待の記録は愈々第二回
を迎えて佳境、神戸在住の松井香代子
さん(本名らしい)から一文を貰つた
責めの作家と誤られての題は編集部
でつけた。甘美なるアリスの降伏、遂
に女体責めの本領に到達、この辺が一
番面白いのだが、公刊誌のために大幅
の削除を余儀なくされるのは残念、新
年号から連載を続けた淫火、らぶすれ
いぶは第十一回を迎え、場面はクライ

マックスに達した。これは共に十二月
号を以つて完結する予定である。

【代理部便り】

十一月号本誌に発表しました通り従
来分譲中の写真集以外に趣向の変わった
ものを多数新版として加えましたので
是非お申込み下さい。尚代理部の分譲
品に對しての御希望は遠慮なく御申出
下さるようお願いいたします。

【営業部より】

◎購読料金の切れました節は最終の雑
誌御送付の節、包装に(前金切)の捺
印を致します故、引続いて会費の御払
込みをお願いします。

◎購読御申込みの節は新規、継続に拘
らず何方月分、何月号よりと御記入願
います。

KK通信

第14号

昭和廿八年十一月一日発行(毎月一回一日発行)
発行人 吉田 稔 編集人 箕田 京二
発行所 大阪府堺局区内菅原通四ノ三〇 曙書房
定価 二十円 (振替口座大阪三四九五六番)

KK論壇

倒錯性の飽和

阪 守 一

本KK通信の第十二号のKK論壇に
て森田勝氏が「稀少性の価値」という
標題で倒錯的な傾向を扱つた出版物に
ついての稀少性の価値について「単に
女体を責めるというだけでは全くの珍
しい中とはちがく、すぐ飽きてしま
う、いかに極端に走つてみても味気な
くなるばかりであります。」云々と云
つておられますが、最近私は奇巧を真
似した或る雑誌三冊を読んでみて、ゆ
くりなくもその感を深
くしたのであります。

私は自分で申すのも変
ですが幼い頃、確か自
分自身を意識する頃よ

り女体の責めについて強い興味を持つ
て荷くもそういつた事を少しでも載せ
ている雑誌や本が目につけば逃さず買
つて読んだものです。それに正直なと
ころその雑誌の三冊目を読んだ時は、
すっかり嫌になつてしまいました。余
りにも病癖じみたそれに架空の作り事
が次から次へ並べ立てゝあるからです
いくら甘い物が好きな者でも、あり
とあらゆるお菓子を一度に出されたら

一べんに食傷してしまうでしょう。特
に倒錯性というものは只でさえ、次か
ら次へと変つたものを求め刺激の強さ
を求めるものですから、急激に強烈な
ものを与えるということは逆効果をき
たすものです。勿論雑誌もそれとし
ては読者の好みを狙つて作つたもので
しょうが、奇巧が甘味な楽しいグルー
プの団らんとして読者にアツピールし
ているのに反して、余りにも極端な感

じで、如何にもその場限りに急に作り
上げたという匂いがして読後感に
になりません。そしてゆくりな
くも森田勝氏の言われた稀少性の価値
とは逆に倒錯性の飽和という事を考え
させられました。女体を縛るについて
も吾妻新氏をはじめ色々の方が馴れさ
せないようにする事について、打つに
してもその場所を変えて習慣にならぬ
よう周到な注意を払うと云つておられ

ますが、私自身の経験でも尤もな事だ
とうなすけます。強い刺激イコール強
い感受性というのは大きな誤謬であり
ます。余り強い刺激は麻痺を起さして
刺激しないのと同じ結果になります。
これと同じく作成している当事者は強
い刺激を興えるつもりでも読者の方で
は案外麻痺してしまつて無関心でいる
というのは皮肉な現象と云わねばなり
ません。私達は強い刺激の中に飽和し
てしまいたいのではあ
りません。緩急よろし
きを得た抑揚の中でも
みほぐされてゆく甘美
なる恍惚の境地がほし
いのです。決して目もくらむような瞬
間にして感覚を失つてしまふような刺
戟に魅力を感じているのではありません
ん。隅から隅まで単調なる騒音に満た
された雰囲気では私達はそれを騒音と
感じることさえ忘れて、只呆然と見過
してしまふばかりです。

狂じみた騒音の連続に随することな
くほのかなニュアンスをもたらしてく
れる永遠の恋人はないものでしょうか



私が責絵を描くまで

南川 和子

羞恥のヴェール
をぬいで

内気で、引込み思案だったわたくしは、子供の頃とても恥しがり屋さんで銭湯へ行っても躊躇んだ儘立上らず、尤もまだその頃は、四ツか五ツでしたから父に連れられてよく男湯に行つたものでございます。

大勢の男の方たちの裸に混つて、じろく見られたりしまして、同じ年頃だった近所の男の子に、銭湯で出合わした時には、それこそ相手の顔が誰であるか判らない程、羞恥心がたたく震え上つたものでした。

父は、そんなわたくしを何の頓着もなくゴシ／＼シャボンをなすりつけて荒々しく擦りたてるのです。その痛い

こと……身を縮めて逃げようとするのですが、父はそんなわたくしを膝で抑えつけ

「不精者ッ、お嫁さんになれないぞ」と云つて叱りつけ、ますます強く丹念に擦り廻るのでございます。その痛さは単なる苦痛ではなく子供心ながらむしろ、何か身のひき緊るような気持で、何時迄も続けて頂きたい様でございましたが……翌日になつて、銭湯で会つた男の子達に、原つばの隈などで昨夜つぶさに瞥見したわたくしのカラダの事を、思わず頬を紅らめるような卑猥な言葉で、まことしやかな口振りがおかしく冷やかされるのがとても嫌い

で、よく逃げ廻つたものでございますが逃げ去つて行くわたくしを余り長追いせずに引上げてゆく子供達に何か物足りなかつたのも未だに覚えております。

こんな恥しい過去を、わたくし自身白々しく告白するのは実に耐えられない事でございます。わたくしは年齢の割に、身体が大柄でございまして、その上容貌も男好きのする顔立ちだつたと、両親も申しておりまして、そのせいか、幼い頃でも大人の方に可愛がられ、同じ年頃の男の子は、進んでわたくしを仲間に入れ、遊び友達にしたがつたようでございました。

そんなわけでもわたくしは男の子達と原つばでよく遊び戯れたものでございます。でも、心配なことが何時も頭の中に渦を巻いておりまして、御小用の時には急いで家に帰り、用をたすつて、また原つばに戻つて行くような始末でございました。

ですから、そんな翌日の冷やかされる事を思うとどうしても、一刻も早くお湯から上つてしまいたかつたのでございますが、そんなことは父には云えずたつた一人悩み続けてもじ／＼しておりました。そんなわたくしを、父は「お風呂嫌いで、困つた和子」と、まるで仇名でも付けるように、面白そうに揶揄うだけで、てんで……わたくしの辛い気持になつては下さらないのでございました。

ですから、母とお茶飲み話になると……す／＼わたくしのことを「なんとかお風呂好きにしてやりたいものだね」と仰有るのが常でした。

三十過ぎになつた今考えてみましても、あの当時の辛い思い出は、むしろ酸しくもう一度、あんなに恥しがつた

い？」

私は怒りに唇をわな／＼と震わせながら重ねてそう聞かずに居れませんでした。何んという事でしようか、どんな女でも思うまゝに妻として選ぶことが出来た立場にあつて、この女こそ自分のよりよき半分として一生を共にするに足ると思つて選んだ妻が、事もあるうにソ連帰りの風来坊に処女を捧げているとは――

「君は僕の所へ来た時はすでに処女じゃなかつたんだね……返事をしないのかッ」

何んと尋ねても返事をしない彼女に私は勘忍袋の緒が切れて、ぐつとへの字につむんだ唇の横を力一ぱい抓りました。抓つた指の跡が赤くなつて

の謝礼を差上げます。

一、原稿は原則として御返戻申上げかねます。

一、締切日は特に定めません。

一、読者の体験告白文は内容及その長短は問いません、誌上匿名は御自由です、奮つて御応募下さい。

(奇譚クラブ編集部)

原稿募集

一、すべて未発表のアップ的興味の作品を望みます。

一、内容形式は本誌に適當と思われるものでしたら如何なるものでも結構です。

一、文章の巧拙、用紙は問いません。

一、発表作品には発行後相当

眼から涙がぼろ／＼と敷布の上へ落ちました。尚も私が打擲の手を挙げようとする

「お寄し遊ばせ」

涙声でそう言いました。私は少し可哀そうになりましたが、いき張り上甘しい事も言えませんでした殊更威厳をこめて言いました。

「素直に返事をしたらいいじゃないか何にも僕は好んで手荒なこととはしたくないんだよ」

「でも、答えられることと答えられない事があります。冬木さんの事は私が嫌だと言つのに無理にされたのです」

「然し冬木君は君が結婚してからでも逢つているといつていたよ」

私はそこで一寸カマをかけてみたのです。それに、あゝ、それに何んとした事でしよう。彼女の答は私を驚かすに十分でした。

「言う事をきかなければ貴方に自分との事をバラスつて恐迫されるんですもの、大体貴方が一時でもあんな男を引取られたのが悪いんですわ」

アプレというのかも知れません。大

体津矢子は自分のした事には道徳的に何の苛責も感じていないのです。勿論刑法の姦通罪も戦後なくなつたのですから、その点で追求することは出来ません。然し苟くも人妻が他の男を通じて悪いという事位わかる筈です。それに彼女は一言の謝罪を述べた事もなく却つて私の処置に責任を持たせようとして居るのです。然しそれもいゝのです。若しそれがそのまゝ真実であつたとしたら。それに翌日私が彼女の手文庫を調べたところ復員直後の冬木から彼女へ宛てた手紙の中に寄宿する当てもないから峯村さんによろしく頼んでくれという内容なのです。

私は即刻、冬木を一番遠方の支店話として転勤させるよう命じました。愈々出発するといふ日、社長室を訪れた彼は「津矢子は私の以前にも男がいましたよ」と嘲笑ひみた捨ぜりふを残して出てゆきました。

私は津矢子を離縁させる気持は毛頭ありませんでした。相手がその気ならこちらもその気になろうと決心したのです。



或る富豪の告白

マゾヒスト誕生(四)

峰村佐吉

打ち克つ事は出来ませんでした。
「津矢子、言つてごらん、冬木とはいつ頃から逢つていたんだね」
私はベッドの端へ腰を下すとつとめてやさしい声でそう尋ねました。怒りのために言葉が少し震えているのを自分でも意識しながら津矢子は私の言葉が耳に入ると口をグツとつぐんで一言も口を開きませんでした。まるで鉄壁にでも突き当つたような感じでした。
然し私はまだ正理衝突するには早いと思つていました。話し合えば誤解は誤解として十分解けると思つたのです。それにどうしたというのでしょうか。繰り返して私の言葉に対して口を開こうとさえしないのです。発作とはこ

の事でしょう。私は寝台の上へ飛び上るなり両手を夫の字にひろげて無防備になつた津矢子の腋の下へ両手を当てました。
「いや、いや、やめて！」
彼女は敵視のこもつた眼で私を睨みつけました。私はもう何が何でも彼女の口から私の質問を聞き出さないと承知出来ない気持でした。両手の指先を腋の下から両脇腹へかけて擦りながら上下させました。声を出す事の無意味をさつた彼女は口をへの字に噛んで縛られた手首を左右交互に引張り合つて身をくねらして私の觸手を耐えようとしています。その強情な態度は私の今迄受けたことのない全身が痺れるような異常なシヨツタを与えまし

た。
(よし、それなら、音を挙げるまで責めてやろう、かえつてその方が面白い)
私は津矢子の膝の上に馬乗りになると、今迄と違つて擦るというよりも肋骨にゴリ／＼と指先が触れる位力をこめて抓つたりひねつたりしました。これには流石強情を張つていた彼女も口を閉じていることがどうしても出来ぬらしく「あ、あゝッ、う、うむ……」と呻いています。私は悠々とその様子を眺めて、平常はその鼻筋の通つた細面の顔立ちに高貴さを感ぜていたのに、今ではその高慢チキな顔をゆがめて悶えているのに、むしろ言うに言われない痛快味を味うのでした。
「津矢子、正直に言つてごらん、正直にさ言つたらそれでいいことじゃないか」
一息いれて私がそう尋ねましたが、「何にも私には答えることなんかありませんわ」
それはなんと冷たい言葉でしょう。いつもの彼女に何か狐でものりう

時代に戻つて見たい慾望に駆られる事がございます。

一般に、美しい容貌や肉体の持主は自分の肉体を男性に誇りたい気持を持つもののようにございますが、わたくしは幼い時から恥しがり屋で、それが次第に少女期になるに従つて嵩じてきたようにございます。その頃、一番困つた事と申しますと、何か一寸した身体の事を云われてもすぐ顔を真赤にしてしまい、それが自分ではどうやらえようもなく、顔が赤くなつたと云うことが更にわたくしの心に恥しさを増して、両手で顔を押えて耳たぶをほてらしていた事も度々でした。そんなわけで少女期には、自分の身体を誇るといふような事はついありませんでした。

少女期からそんなに羞恥心が強かつたと申しますのは、わたくしが早熟であつたせいかもしれないと思ひます。と申しますのは次第に思春期になるに従つて、露出的に挑発的な服装を好むようになったからでございます。そして、女学校へ行くようになって

から今迄の引込思案が反動的に爆発したとでも申しましようか、不思議なものでございます。子供の時、あれ程恥しがり屋だつたわたくしが、こんな事を平気で申し上げられるようになるなんて――丁度それは、女学校三年生の時でした。一生忘れることの出来ないこの時の強烈な思い出が、後年わたくしを「責め」の強い魅惑の中へ惑溺させることになつたのでございます。わたくしの父は、もとく地方官庁の役人だつたものですから、その当時は、湘南地方の大磯町に転勤しておりました。御飯にお味噌汁をかけて食べる人は、男女を問わず国廻りするようになるものだとか、母から聴かされておりましたが、母はその通りになつて、転勤當習犯の夫と結婚する因縁になり、こうして嫌になし、国廻りをさせられているのだと申して居りました……

当時のわたくしの家は、東海道の松並木に沿つた静かな別荘地帯にございました。閑静な土地の好きな母は、強いて此処を選んで高額の家賃を父に払

わけていたのだそうでございます。女学校が終業になりますと直ぐバスで大磯の町へ帰り、お隣の志津子お姉さんの御部屋へよく遊びにまいりました。
志津子お姉さんは、わたくしと同じく平塚市にある県立高等女学校へ通つておられて、五年生でした。五年生は花嫁料と申しまして当時は、花嫁学校のような仕組みになつておつたのでございます。
志津子お姉さんのパパは有名な東京の建築技師さんで、八重洲西ビルを始め市内の目ぼしい西洋建築は殆んど何らかの形で手を加えていらつしやつたそうです。
その頃、確か十八才だつたと記憶致しておりますが、御立派な体格でその上、明眸皓齒と申しましようか、抜け出たようにお肌が白くわたくしの母などは、お会いする度に嘆息を洩らし「すつかり、お嫁さんね」などと云つては、お姉さんを恥しがらせていたものでございました。わたくしは美しいお姉さんが大好きで、そのお傍に坐ら

雑報

○特別会員の方で変つたもの、コレクションの交換を希望される方は編集部宛付辻村隆宛へ御照会下されば折返し同氏より詳細御返事差し上げるそうです。
○その際は交換可能の大体の目録並に希望する品を記入下さいとの事。

責めを扱った輕演劇

佐 瀬 頼 信

(三〇九)

十月号の巻頭の映画シナリオの物語は実に素晴らしいものだ。小生が中学生時代に夢に描いた空想がそのまゝ表現されたようで後日譚があればと欲を出しています。兎も角こういった新しい企画には双手を挙げて賛意を表します。フレッシユな感覚とエネルギーシユな企画、それに悠大な構想には大きな期待を持っています。

さて小生が最近の劇場で見た賣の演劇を紹介しましょう。時代は江戸時代江戸の巷に次々と娘や若妻が姿を消し何者かに連れ去られる。町の岡つ引きは懸命に綱を張るが一向に目星がつかない。そ



こで家老の娘で勝気な持前から振袖姿に紫の袴にお高祖頭布といった服装で賊の隠家をつきとめ、トンマな目明し一人を従えて忍び入る。そこは窟でまわりの壁は破れクモの巣が張つていて中に数人の女が半裸で縛られている。驚いてこれ等の女の縄を解こうとしていゝ所へ悪人の首領が短銃を構えたまゝ奥より現れて「飛んで火に入る夏の

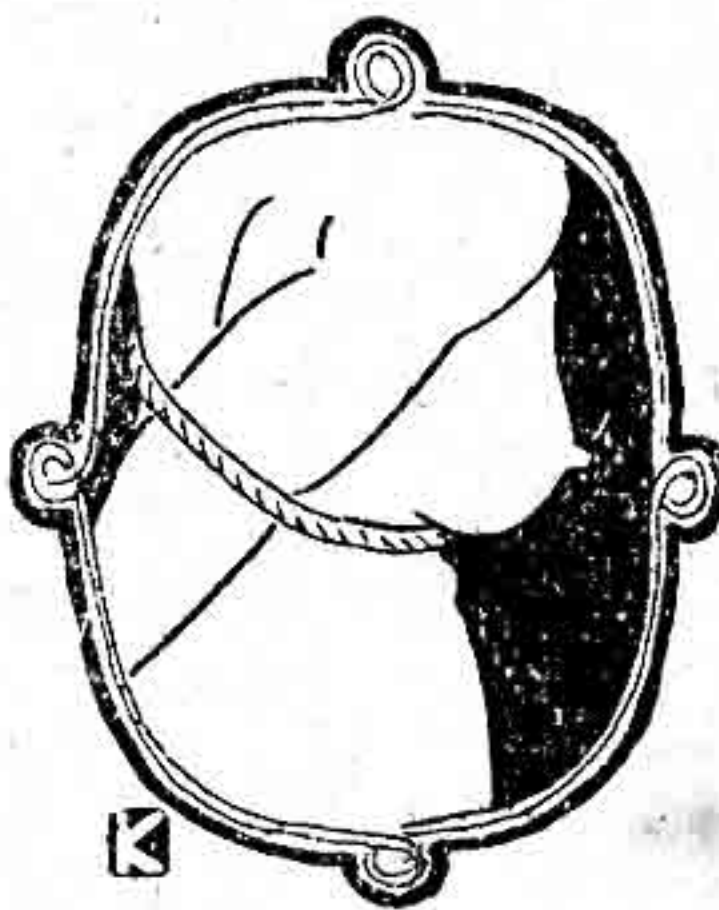
虫とは……」と銃口を向けたまゝじりくく寄つてくる。二人は次第に後ずさりする。首領は目明しに大喝一声、「其の女を縛れ……」と鋭く命じる「ヘイ」と主人からの命令の様に振袖の上から縄を一番程かけ、柱に後手に縛る、それから思い直した様に十手を構えて打つてかゝるが「エイ」と当て身を喰つて軽く伸びる。賊はそろそろ柱の傍へ行き娘の頸を持ち上げ卑猥な言葉を浴びせ、其の襟に両手をかけぐいと着物を肩からすり下げる。縄は乳房の下にかけられているので乳房は両方共丸出しにされる。娘は羞恥に苦悶する。賊は涎を流さんばかりに目をそばづけて眺め廻し一寸手を觸れたりする。そして鳥の羽根を持ち出して乳房の上から擦る。その時の女の身悶えぶりが見事でした。それから鞭で打つたり裾をはだけたり、遂には落花狼藉に及ぼんとする時に、先の目明しが呼吸を吹きかえして大立廻りとなり、呼子の笛に応援隊がきて賊を捕えるという筋ですが、あれ程もろく氣絶した目明しが今度は容易にやられないのもおか

しい又勝気の娘がたえなく縛られるくだりも拍子抜けがしますが、責められる所だけが売物の劇らしく、ストリーは単純ですが内容がアブだけに結構楽しく見られました。若し本誌の企画陣が参加して演出構成すればどんなに素晴らしいものが出来るだろうと思っていました。

◎特別会員規程◎

- 一、資格
○奇譚クラブの愛読者にして本誌の編集方針に対して共感を持たれる成年の男女。
- 一、会費
○KK通信半年分以上の講読会費を前納せられる事を以て充当します。当分別項の催物の場合以外、会費は徴収いたしません。
- 一、特典
○特別分譲品の斡旋及び紹介。
○座談会、展示会、交換会等の参加。
○趣味文書の分譲、交換斡旋等。
○会員相互の交通斡旋。

伊呂波仁補遣抄



(四三頁下段二〇行目) やがて胸のブラウスのボタンの間から大きい手が入り、ぐいと乳房が掴まれ、荒々しい男の息吹きが顔にかゝつた。(六〇頁下段三行目) 私の肉体の一部を(九四頁下段一五行目) 移動します(一四〇頁下段十行目) 後を侵(一八二頁上段一〇行目) 下方に(同二行目) 其処には豊饒な柔毛があでやかに生い茂り二葉の珊瑚の唇を蔽い隠す程その周囲に叢を成していました(同中段一四行目) ヴイナスの丘に目を注ぐのです。絶妙な肉付き、それは私の逸り立つ指が微妙な輪廓を這い廻り斯くも優しげに密生する陰毛の林に埋れる時無上の快楽を与えてくれるのです。(同下段一四行目) 陰部に旨く合う(一八三頁上段八行目) 凌辱の(同二行目) 左手でピツタリ押えつきますと(同下段

四行目) 彼女は腕を腰に巻きつけられてピツタリ私の方に押しつけられていました(一八四頁下段八行目) 開かせ(同二四行目) 一寸休みますと再び両手を腰に置き暫時はお尻の高まりを樂しみ弄びましたがやがてお腹へと廻り、右手は腰の下部に左手は胸にと酔心の境を求めました。歓喜に震える双手は全身を這い廻りました(同一九行目) 右手は又してもお臍に頸を求め人差指が其処を静かにまさぐる中に右手はそつと右の乳房に這りこみ優しく捕えました。(同三行目) 私の指が其の美果かとまがう乳房に戯れ絞り上げ撫でさすり押しつけ潰し上下に転々させ可愛げな乳首を刺戟し昂奮させますと曾て覚えない感覚にドキドキと弾む豊満で丸やかな乳房、紅潮した双の頬が胸の鼻孔、半開の眼、喘ぎ上下動する胸、私は蕩然として淨らかな円球に弄れ転々変化する感情に云う方なく淫らにも美しく身をくねらせ振るアリスを鏡中に鑑賞するのです。(一八五頁上段三行目) 手は徐々に這い

以上



男 体 頌

東京 T K

隆々と盛り上る筋肉を
純潔な白い封筒にびつたり封じめ、
健康そのものが機械体操をしている
緊迫した白の点線を空中高く描き、
それは意志と戒律の拋物線となる。

白い封筒の極秘の捺印あるところ、
一茎の初々しい雄蕊によせて想う。
それは一切の汚濁から護る
堅牢な核膜で内包され、
固くて小さくて力に満ちあふれ、
淡紅の蕾に似て神々しく光り輝き
あの拋物線を作る核軸の核心体となるもの。

それが開花発情する結婚の初夜、
一切の戒律と皮殻が強く破られる瞬間、
あの渾刺と逞ましい肉体は
純白の封筒から抜け出て

麗麗たる裸身の親展状をつきつけ、
鮮烈な男の精臭で
散乱するその花粉で
花嫁を窒息させるにちがいない。

あの満々とたぎるものをひそめて、
白く厳しい拋物線の殻は、
いまや青春の噴火口にうづくだろう
戦慄と殺気にたちこめ
あの火山が鳴動を初める時、
狂暴な男性の初夜を
どの女が耐えうるとゆうのだろうか。
あゝ、華麗な花火の夜をこめて、
絢爛と炎上する男の燃焼に
誰が対峙しうるとゆうのだろうか。

白い封筒が あいかわらず、
極秘の親展状をびつたり封じこめ、
機械体操をしている。

いる間にも、女はさぞ耐まらないといつた恰好で全身を渡うたせて身悶えしています。何にしろ足首から膝頭、太股、胸、首とぎつちり椅子に縛りつけているのですから、ムツチリと張りきつた肌に捕縛が喰い込んで身動きするたびにぐびれた筋肉がねじきられるようにゆがんでいます。

「あ、あゝ、あゝ」
女らしい呻き声が押し殺したように女の口から洩れてきます。肌からブツブツと汗が吹き出て駆足するときのよらに膝頭がぐくぐくと震えています。

「どうだ、素直に白状するか？」
Aは足の前へ廻つて嘲けるように言います。私はAの廻つた反対側から前へ出てみました。前へたれた髪の毛が顔へべつたりと汗でひつついて、先刻の如何にもソソとしたインテリじみた顔付がいやらしい淫婦のような形相に変わっているのです。途端に理由もなしに私はこの女が憎くてたまらないような気が起りました。もつとくひどい方法で苛じめ、羞しめてやりたい衝動でした。それから以後そういった機会

もなく、又そんな気持が起つたことも特に記憶しませんが、その時は真実その女が憎くて憎くてたまらなかつたのです。

【編集部便り】

○今秋予定しておりました臨時増刊号には吾妻新氏が本誌読者のために寸暇をさいて翻訳下さっているサディ・ブラッケイズの小説（The Gloomy Experience）と決定いたしました。題して「アリスの人生学校」第一部純潔教育、第二部 貞操教育の二部に分れた堂々五百枚に近いサディズム小説です。内容は因習的なフランスの田舎町における上流階級の厳格な教育と変態的な生活との矛盾を描いたもので可憐な美少女アリスがあらゆる惨酷な方法によつて徹底的に苛めつけられる事が中心になつていますが、彼女の友達である少女達も登場、それらの少女達の受ける折檻の描写はそれぞれシーンに特色を出



し、単なる肉体的な折檻に止まらず、きわめて保守的な上流社会の風俗で、しつこい程の心理的凌辱が織りなされています。

第一部はアリスの娘時代、第二部は無理に押しつけられた結婚によつて嫉妬深いサディストの手に落ちたアリスの物語となつています。

○「クリスチヌの受難」に於いてその麗筆と要を得た責めの描写によつて絶讃を博しました吾妻新氏が特に本誌読者の熱烈な乞いをいれられてお忙しいところを大部の翻訳を快く引き受けて下さいました。

○単行本にすると、ゆうに数百円の定価になるという内容を雑誌型の臨時増刊号の形式で、安価にひろく愛読者の皆さまのお手元へお届けしたいと思ひます。但しその価値を高めるため普通号よりは大幅に減額の予定ですからお買い洩れのないよう願ひます。

○表紙、口繪、挿繪につきましても、こういった形式の新しいスタイルの確立のため十二分に研究したい考えです。○一斉発売の時期につきましては改めて発表いたしますが、直接購読者の方へは自動的に発送いたします。

（谷口寛画）

「変態」という言葉に

悩む人達へ

天 泥 盛 栄

私は此の月の初めに妻と別れた。或は他の変態性慾者の何人かが同様の運命にあるかも知れない。併し若しその人達が悲しみ、憂えているとしたら私はその人達に告げたい。変態性慾が果して罪悪であり不道徳である故に妻達或は良人達は別れていったのか。

これを是認する人々は全ゆる芸術界の作品に目を通して頂きたい。芸術の園にはその大部分の面積を占める変態的な精神の昇華がある。サディズムを非とする者は試みに、リヒアルト・ワグネルの老大な芸術の領土に思いを馳せて見給え、サディズムの精神なくしてこの空前絶後とも云われる精神界の王国は有り得ない。彼の総合芸術の根柢をなすものは権勢と支配と暴力的な力量とである。それはひいては二十世紀の有した最大の財宝の一つであるリヒアルト・シュトラウス博士の「サロ

メ」に連なる。若し読者にして音楽に興味を有する方は是非共一聴をすゝめたい。

血の滴る生首に銀の盆、それを差し出す黒い大きな手、そうしてそれらの事物に絡る「熱愛」の執著。

（嗚呼、妾は汝の唇に口吻ける、ヨカナンよ）というサロメの台詞についで古代淫蕩を極めたエロディアスの宮廷に輝く篝火の輝き、怖れ戦く（正常な）家臣達、七つのヴェールを脱いで踊つた「七つのヴェールの踊」のむせかえる様な肉の香りに満ちた旋律が起り、台詞は（汝の唇は苦い味がする、それは血の味だろうか、いや、それは恋の味に違いない）というくだりを通つてサロメの狂乱へと移つてゆく。

この紐育のメトロポリタンが初日の翌日、風紀上の理由を以て上演を中止した驚くべき作品は、台詞以上の雄弁

さを以て音楽が物語るといわれている果してこれが正常神経と單なる天才によつてのみ成立する作品であらうか、翻つてマゾヒズムを排する者には私はフレデリック・シヨパンやジャコモ・プツティニの作品を挙げて答へよう。センチメンタリズムは常にマゾヒズムの基底の上に立つ。甘美にして流れる如きプツティンの作品は単にマダム・バタフライをのみ論じてはならない。ラポエームに流れる聴者の胸の底から涙を誘い出すプツティンの佳作を分析してマゾヒスティックな多くの根柢を挙げる事は簡単である。

又、フェイティッシュに対する反対或は輕蔑に対しては明白にして簡單なる一人物を挙げよう。即ちクリスチアン・デイオール氏（巴里のデザイナー）である。異性の衣服に対して狂熱的な尊崇なくして彼の驚嘆すべき着想、地上のものと思われない線等が考えられるであらうか。

私は偶々、マゾヒズムの系列に属する一人であるが決して他の傾向を無視しないし、どれ一つにしても屍姦狂崇

○本誌に対する会員通信、投稿は優先的に掲載いたします。

一、機関誌

○特別会員の機関誌としてKK通信を毎月一回発行の上、会員へ直送します。一、入会手続

○八円切手封入御申込下されば、特別会員申込書を御送付申し上げます。各項目に御記入の上、御送付下さい。

○折返えし会員証（会員番号記入）を御送りします。但し送料八円御負担願ひます。

○会員の個人的秘密については厳守いたします。

○其の他必要なる事項は、その都度KK通信誌上に発表いたします。

○前金切の節は速かに継続の購読料の御送付を御願ひします。

に対してそれが特に誤つた考えであるとは思われない。正常は常に変則を輕蔑しつゝ、変則に憧れ、健全は自尊心を持ち乍ら常に不健全に恋する、変態は常に正常より進み、迫害の中に置かれるのであると思う。

自縄自縛の新考案

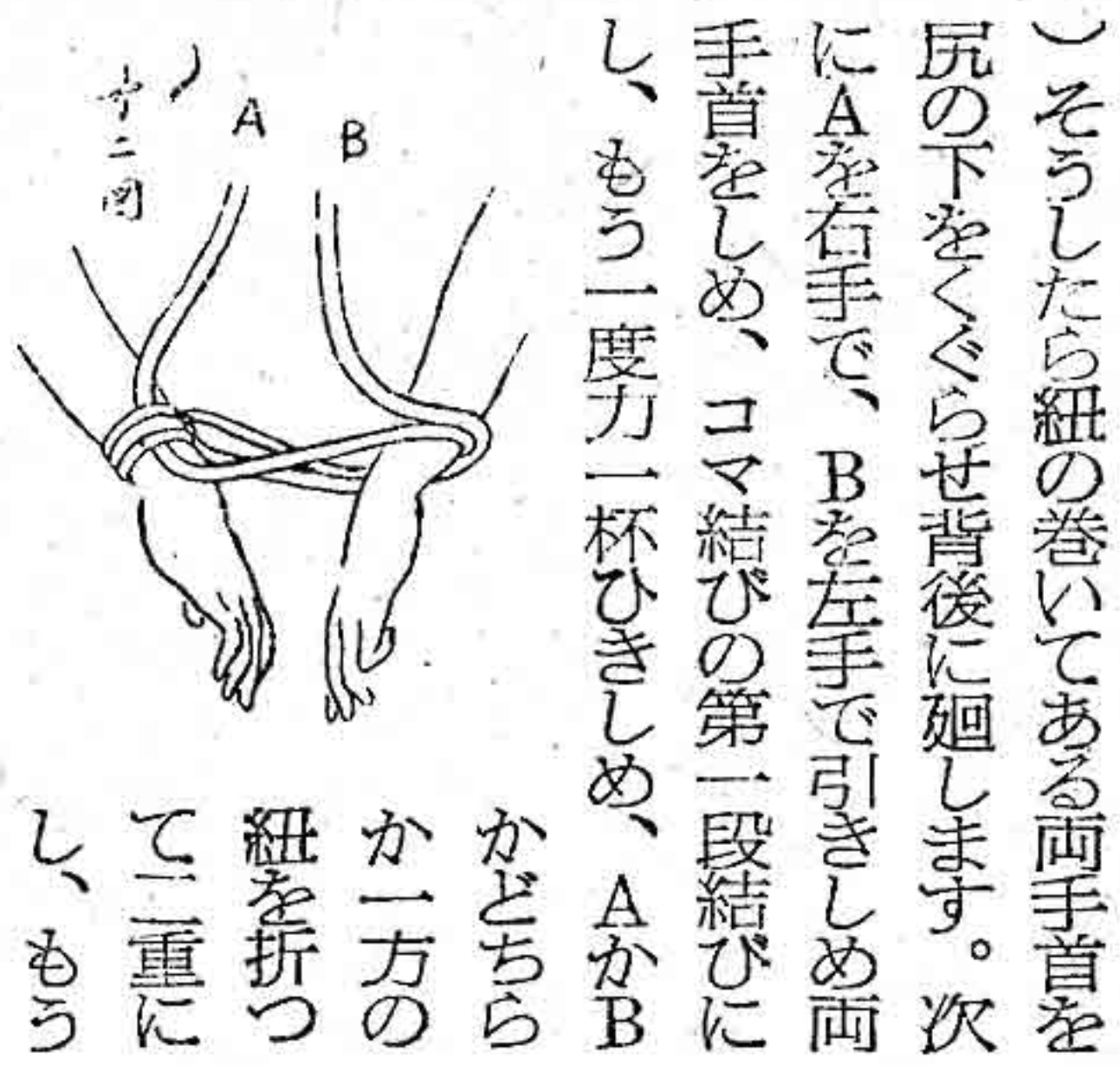
納 家 生

責めの小道具としての針

若 松 宏

自分で自分を縛る方法を考えました
まず長さ三米程の紐を一本用意し、その紐の真中辺を左手首に巻き、しつかり結んで縛ります。(第一図)次にA・Bを右手首にかけ、Aを左手首を巻いた輪の下をくぐらせ背後に廻します。次にAを右手で、Bを左手で引きしめ両手首をしめ、コマ結びの第一段結びにし、もう一度力一杯引きしめ、AかB

かどちらか一方の紐を折つて二重にし、もう一つの方



の紐とコマ結びの第一階段結びをしめます。(第二図)(完全なコマ結びにしますと解くのに難しいからです)

(これで両手首は固く縛られたわけで強くしめてあれば両手首は痛い程です)

解く時は輪にして結んだ方の紐の端を引き、結び目を解いて両手首でこじれば第一図の状態に戻ります

胸や二の腕、股を縛つてから両手首を縛つても、何ら両手首を縛る操作のさまたげにはなりません。両手首を高く吊る場合は首から適当な長さの紐をたらし、そ

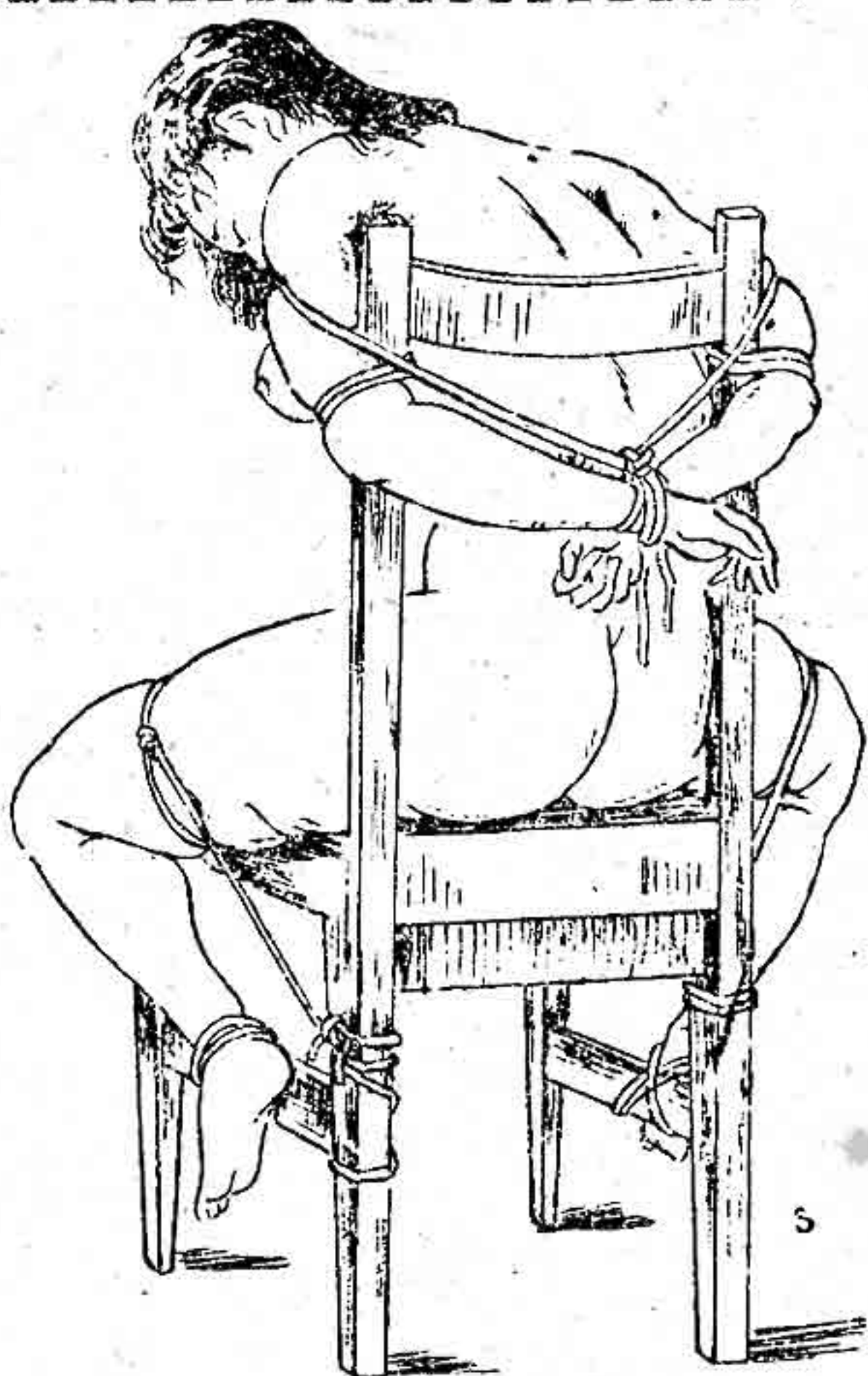


私は軽度のサディストであり強度の足フェティシストで各種の責道具の中に針は若い時からよく使いました。針は最初は十八金のワイヤー、最近では主に動脈針を使っております。長年の経験で動脈針は長さの点、太さの点、折損の恐れのない事、傷跡の小さい事、従つて癒りの早い事、不注意のため縫針にある全没(針全体が筋肉の中へ入つてしまふ危険)のオソレが全然ない事等の諸点で最良と認めています。本誌十月月号の南川和子さんの「針を刺される女」には感心致しました。然しあちこちに蚊がとまつたように如何にも遠慮勝ちに刺つていますが、さすが御婦人のおつゝ、ましい事と微笑を禁じ得ませんでした。

胆に長くて安全な動脈針を使つてもらんなさい。キツト糸をつけた縫針よりも余計にエキサイトされることを請負います。私の長年の経験では全身の軟部は勿論、甲から足裏へ、或はその反対に、手の甲から掌に、又はその反対に乳房はもとより亀頭も陰茎も睾丸もOK(但し尿道は消毒関係でタブーとなります)手足の指趾は小さい注射針で結構ですが二指以上を一緒に貫く場合は彎曲の関係上十四金ワイヤーに限る様に経験しています。両太股を揃えて縛り又は捻じ縛りにして両股を一気に貫通するには十四金ワイヤーに限ります。和子さんの「針を刺される女」で肩胛骨間の針刺しは体の外面から肺臓に最も近い距離の関係上これは危い芸当だと心配申し上げます。御存知のように何にも針だけに楽しみを委せる必要はないのですから更に奇抜なアイディアによつて責女の責に対する御熱情を具現して頂きたいと思ひます。

女性拷問を見る(二)

神 野 孝 作



私が入つてゆくとAは自分の職権で若い女を拷問するのが如何にも得意らしく十分に私の方を意識して右手に持った撃剣用の竹刀を素振りしながら、「どうだ、いゝ加減に白状しないか、お前が余り強情を張るから、こうして偉い方も来ていられるのだぞ」

椅子に縛られて身動き出来ない女の顔に口を近づけてそう言いました。何か私を係官のようにとりつくろつてくれるのです。それでも女は黙つていました。私は取調への邪魔になつてはと思つて座らされている女の背後の部屋の片隅へ立ちました。そんな場面に立ち合つた事のない私としてはまるで自分が責められでもするようにおすくしました。若しそこにいるのが将棋友達のAでなかつたらとうの昔に私は逃げ出していたでしょう。股を無理に開かせられて椅子に縛りつけられた女を後から見る方がずっと魅力があり、エロチックでさえありました。特に股のつけ根からお尻にかけて股を開かせられた為筋肉がぐつと盛り上つていのは如何にも女を責めるといつた趣向にぴつたりして私はそこばかりを見つめていました。

その中、今迄じつとしていた女が先ず肩のあたりから身体を揺りはじめました。下腹部から腰へともぞくと如

「愈々これから面白いんだ」というようにニヤ／＼笑いました。然し私にはまだこれから何が起るのか、さつぱりわかりませんでした。女の口から食塩水を吞ませて、このように股を開けさせて生理的排泄を催させ、男の前でそんなあられもない恰好のまゝで羞恥の極致をさせ、白状させるという事は聞いていたので或はそんな事でもさせたのかと思ひました。然し附近にはそういった水を入れる道具も一向にありませんでした。

が如何でしょう。本年も余すところ十一月号、十二月号の二号となりまして、新年号に於いて前の年の一カ年の雑誌の中で優秀なる作品を読者の投票によつて決定して、その作品の作者と投票した読者に賞品を呈するのです。こういった事によつて我々グループと貴編集部並に作家とが一層緊密なつながりを持つと思つたのです。K通十三号の会友通信で(三三〇号)の提案には私も賛成です。出来ることならこの線の繪なり写真を発表してほしいと思います。(YAO・一八六三)

○

今日来るか明日来るかと毎夜帰宅の度に焦燥と失望を繰り返されるのは耐えられません。御誌編集部の方達はサディズムの傾向があまりの様です。御希望でしたら私の体を提供してもよいのですからKKだけは遅らせないで下さい。恋人を抱くような気持ちで貪り読んでしまい、あゝ、後又一カ月待たされる。一カ月たつた一度の逢瀬を指折り数えて待つ身にもなつて下さい願えれば日刊でも読みたいのですが、

あなた方がのびてしまう事と存じ遠慮して居ります。こんなにも可憐で慎ましい私の唯一度の面会日を遅らせる様な残酷な虐め方は許して下さい。お願いします。(東京・一七〇九)

(一寸お答え、いやはや、何んとも申し訳ありません。編集員一同骨身をけずつて慰める思いで一生懸命作つて居るのです。遊んだり怠けたりして遅らしたわけではありませんので何卒お宥下さい。御愛読只々感謝の言葉もありません。更に頑張つて御期待の一分にでもそいたい気持ちです。T生)

○

貴誌の持つ異色性と特異な企画には私達の生活にうるおいをもたらすものとして敬意を表して居ます。一層の迫力のあるものにする為、一読者として「緊縛された女体」に関して私の希望を申し上げて御伺い致したいと存じます。

貴めの美しさは二の腕に喰ひ込む緊縛と猿轡にあります。殊に後者は美の消長を左右します。と云うよりも私はむしろ猿轡一辺倒のものであります。

貴社の写真集は他社のそれに比して問題にならぬぐらい良心的であり且つ迫力に富んでいます。私が残念でない点が一、二ありますので並べてお願いして見たいと思います。

一、猿轡を嵌めた場合、何と云つても美しいものは女の目であります。貴誌の写真は緊縛の条件は申し分の無いものですが、遺憾な事には顔を正視し得なく、背面とか側面とかでこの女の目の美しさに接し得た写真は余り見受けず猿轡の美しさを台無しにしてしまいました。モデルの意向もある事でしょうから、この場合必ずしもヌードのみとは申しません。着衣でも結構ですから(尤も一般にヌードの方が魅力はありますが)この猿轡の目の美しさを堪能させて戴けないでしょうか(升岡金吉氏の縛られた女優たち(一)の中に長谷川裕見子の遊侠の群れでこの目の美しさを強調しています。私も同感、あの目は本当に美しかったです)これは貴誌とは問題にならぬと稱した他誌には割合に見られるのですが、貴誌に見られないのは残念で堪りません。

二、前記充分なる緊縛に比して余りにも弱いズレ落ちそうな猿轡の嵌め方を散見する場合がありますが、これは全然問題になりません。亦、アゴのあたりにかゝつて居るもの、鼻を越して眼の下に迄嵌めてあるものは矢張り美しさには欠けます。鼻口を掩うか、掩わざるかの前後が、私は美しい猿轡と見えています。

三、前記一、二の条件により猿轡をクローズアップさせた猿轡特集と云うものを編集して戴けませんか、ひとりよがりの事のみを申し上げましたが、読者の声を尊重すると言う点が、貴誌の最も良い事であり、それは誌上に多く見られますので敢えて申し上げます。(東林生・一五五五)

(会員諸氏へ)

牛歩の歩みを続けて来ましたがKK通信も本号で第十四号を迎えました。お蔭で会員数も漸増の一途を辿りその価値も高まつて参りました。何卒皆さまの愛読として、御遠慮なくドシク御寄稿の上、グループの機関誌として活用して下さいようお願いいたします。

ます。――後略――

古川裕子

川合伊都子さんより――

十月号で私への御連絡をいただきありがとうございます。あのように仰言しやられると少々恥しくなりまして、原稿を送りしものを躊躇してしまいました。でもやっぱり見ていたかったです。あのような原稿を御目にかけると切腹するのと同じことで、最初の皮切りが苦痛なだけかも知れませんが、

――中略――十一月号の予告に「切腹女性の写真」とありましたが、どんなポーズなのか楽しみにして居ります。

私も随分いろいろな扮装をして撮つて貰いました。何れにしても潮紅を使いますと後の仕末が大変で――中略――写真が顔がはつきり撮れているのが多いのでお送り出来ませんが何れ傑作が出来ましたらお見せいたします。

川合伊都子

短信往来

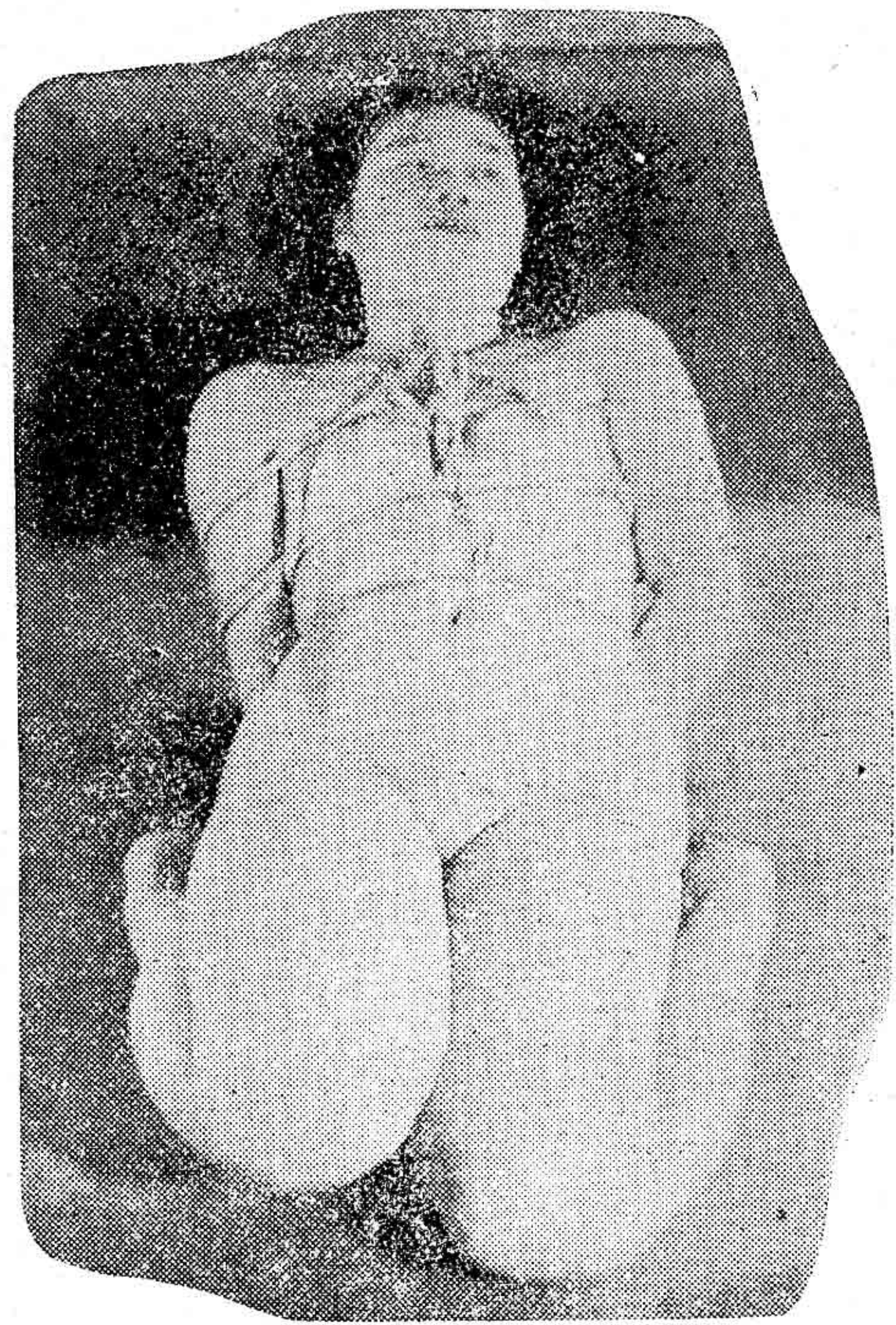
○二侯志津子さんより――長らく御無沙汰いたしました。私は結婚に失敗して只今東京でしかない内職で生活しております。むしろ何かに書きたくありません。二侯志津子結婚に失敗の記でも書いてみよかしら。ものになるかどうか分かりませんが――

○野村恵美子さんより――二三日何となく落ちつかず、毎日新橋駅前の売店の前をうろくして居りました。待ちこがれた十月号を手にして胸をドキドキさせて飛ぶようにして家に帰り一気に入読んでゆくと二三頁、私は息のねがとまるおぼえでした。私の告白「マダム紅鶴」が活字となつて居るのです。夢ではないかと目をこすりました。夢ではない、瀧麗子様の挿繪が私の拙文を磨き上げて輝やかしいばかりのもの

られた感覚は、まったく他人に縛られたのと同じで、結び目を絶対に解けない様に結んでしまえばまったく他人に縛られたのと同じで、もう自分では中々解かれせん。にして下さいました。麗子様是非感想を聞かせて下さいませ。今新橋の紅鶴は二階三階をヌード写真の貸スタジオにしています。その看板を見るたびに腕や背中がうすくのです――

○古川裕子さんから――

八月号の佐治さんから委に下さつた文章のデラ刷をお送り下さつてからお返事を書こうと思いつく、とうとう今日までのびてしまいました。佐治さんへの御返事というつもりで書いて居るうちになんだか又又自身のお願ひのことのようになつたりして、よつぱどこのまゝ屑籠へ投げて下さいかと思いましたが、編集部の方へだけでも見て頂こうと思つてお送りしてみました。どうぞよろしくお願いいたします





会友通信

男性には元来サド的傾向があるものとされて...

す。皆さんこれは男性マゾといえないでしょう...

段と激しくなつて参りました。山中湖輕井沢、蓼科高原など乗馬クラブのあるところ...

くらか読みましたが、技術的解説の書ばかりで心理的に解説したものはないようです...

作つて下さい。(東京T・N生)

○

奇クによつて今迄満されなかつたものが一度に満された喜びで一字一句ゆるがせにせず愛読しています...

(大阪・吉住たかし)

○

今迄発表された女責めが専ら有形的と申しますか、現実的肉体的苦痛に限られていたようですが...

(熊本・鷹和彦)

○

特別会 員制を實施され、我々奇クK通の愛読者のグループが充実したのは非常にうれしく思います...

